

# ソフトウェア工学：40年目の現実

中 所 武 司

今年、1968年にドイツのGarmischにおいて、a Working Conference on Software Engineering が開催されてから40年目になる。The NATO Science Committee がスポンサとなり、11カ国のユーザ組織、メーカ、大学から50名以上のソフトウェアの専門家がこの会議に参加して、ソフトウェアの設計と実装、ソフトウェアサービスなどに関して議論している。たとえば、社会の中核に位置するようになりつつあるデータシステムにおける十分な信頼性達成の課題、大規模ソフトウェアプロジェクトにおける工期や仕様達成の困難性、ソフトウェア技術者の教育、などである。ソフトウェア危機やソフトウェアギャップなどと呼ばれる事柄に関する議論が多くなされたようである。

さて、それから40年目の今、不都合な真実ならぬ不本意な現実を目を向けてみる。